**夏堀　茂 （なつぼり・しげる）**

**１、プロフィール**

詩人。上京していた昭和26年頃に三浦哲郎と交友（『世代』に「或る詩人への手紙」として掲載されている）。西條八十門下の「プレイアド」に参加。「くうたふむ」同人。

＜生没＞

1929（昭和４）年３月24日～2010（平成18）年

＜代表作＞

昭和29年10月20日の詩集『晩夏の蝶』（あのなっす・そさえて）・昭和32年９月20日の『星あかりの庭』

＜青森との関わり＞

八戸市に生まれる。草飼稔・植木曜介・高木恭造・船水清・村次郎の詩誌「くうたふむ」に、船水の推薦により同人として参加。

**２、作家解説**

昭和４年３月24日、八戸市に生まれる。湊小学校、旧制八戸中学校を昭和23年に卒業し、旧制第一早稲田高等学院文科に入学。病気により中退。アテネ・フランセ、日仏学院でフランス語を学ぶ。西條八十門下の「プレイアド」に参加し詩作を始める。同時期に新谷和江等がいた。

昭和23年から33年まで東京に住み、郷土の詩人である村次郎の指導を受け、昭和29年10月20日に＜あのなっす・そさえて＞の第２期あのなっす叢書として詩集『晩夏の蝶』を出版。昭和29年３月１日に高木恭造の音頭で草飼稔・植木曜介・船水清・村次郎とで創刊された詩誌「くうたふむ」に、第８号より作品を発表し第10号より同人として参加する。

昭和32年９月20日に詩集『星あかりの庭』。（私家版）を出版。

昭和34年に八戸市の実家に帰り家業の水産物買いつけ業に従事。昭和37年頃に家業が倒産。その後、八戸商工会議所の広報担当嘱託として５年間勤務。この間に書いた作品は未完のまま詩集『風雪』として残っている。

昭和42年10月、八戸商工会議所を退職し、独立して、現在に続いているタウン誌「月刊ぷれいがいど東北」を創刊。同誌は平成14年１月に400号を迎える。郷土の文化を様々な角度から見つめ、随筆等の書き手を育てることにも力を注いだ。ＮＨＫ八戸放送局の文化センター「エッセイを書く」講座の講師をつとめたほか、「ふるさと讃歌」等、作詞も手がけた。

**３、資料紹介**

〇『晩夏の蝶』

図書

1954（昭和29）年10月20日

198mm×105mm

昭和22年に八戸市で村次郎と石橋正一郎によって設立された＜あのなっす・そさえて＞の第２期あのなっす叢書である。未知の友に捧げる21編の作品が収められている。タイトルにもなった「晩夏の蝶」の一連目は「ゆるやかに輪舞(ロンド)を描いて黒い蝶が飛ぶ」である。